

視察・研修報告書

視察・研修先	第 86 回全国都市問題会議
日 時	令和 6 年 10 月 17 日(木)・18 日(金)
場 所	アクリエひめじ(姫路市)
テーマ	健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～
対応者 (講師)	基調講演:福岡伸一 報告:清元秀泰、谷口守、井崎義治、畑豊 パネリスト:三木崇弘、奥村圭子、今井敦、南出賢一
概 要	
<p>【10月17日】</p> <p>●基調講演「生命を捉えなおす—動的平衡の視点から—」 ・生物学者で青山学院大学教授の福岡伸一氏の基調講演 ・生物学ということで私は経済学経営学専攻のため門外漢で難しいお話であったが、生物の構成というのは激変しないための作用があり、物量が変わらない、あらゆるところで細胞が入れ替わり、再構築し続けていることが動的平衡であり、生命は先回りして作り壊すことで構造としての平衡を保っている話であった。 →これがまちづくり、都市論、組織論にもつながるのではないか、それは首長および行政だけではなく、議会もまた中長期的視点に立って調査研究し、議論し、行政を導くことも重要であると感じた。</p> <p>●報告 清元秀泰姫路市長は健康づくりに関する取り組みとして、市民が主体的に介護予防を促進、ウォーカブルシティ推進、ICT 活用の健康づくり、さらに幼少期から老年期まで継続的に健康づくり支援をあげ、報告した。 谷口氏の報告は、都市計画家は固くて四角く、生物に着目する人が少ない。人口減少、防災、コミュニティなどの変質は丸い、柔らかい生物的視点が重要となると報告した。広域的整合性について、福岡県を事例に話し、都市の交通連続性の重要性に触れた。さらにニュータウンなどは老朽化した場合は人口減少に合わせた再開発が必要であることを説いた。 井崎流山市長は同市の健康都市の取り組みについて、グリーンチェーン制度と認定制度、要配慮児童保育コンシェルジュなどを説明した。 畑兵庫県立大学教授からは AI による嚙下解析とその歌唱による誤嚥への挑戦についての話のほか、生殖医療について、子宮運動のパターンを解析し移植の最適時期の決定や不妊治療の土日診療や平日は18時以降も可能などの取り組みを説いた。</p> <p>●パネルディスカッション 宮本太郎中央大学法学部教授は、健康づくりによるまちづくりについて、市民を巻き込みながら健康・医療資源をつなぐことを述べた。 高岡病院の三木医師は、心理社会面からみた子どもの健康について、行政ができることとして教育福祉保健医療といった部門間連携、部門そのものの統合も説いた。 NPO法人理事長の奥村氏は栄養パトロールについて愛知県日進市、山梨市の事例を解説しながら、説明した。さまざまなステイクホルダーのいる保険事業、介護事業において要支援者の多機関連携体制を構築し、健康不明者を減らし、フレイルリスクのある人が支援から漏れること</p>	

を予防するものであった。

今井茅野市長は未来型「ゆい(結)」で紡ぐ健康高原都市について解説、社会インフラの健康ではデマンドバスと通勤通学バスのコラボによる新地域公共交通体系への転換を図っているとした。小児オンライン相談サービスではチャットによる相談対応を行い、保護者の不安解消、負担軽減のほか、救急医療機関の混雑緩和、適正診療につながり医療費削減も期待される。またタクシー等を活用した貨客混載による医薬品の効率的配送、妊婦届の電子化による妊産婦へのサポート体制強化、行政職員の業務負担軽減を伝えた。

南出泉大津市長は食育の推進、健康状態の見える化、健康や医療に関する多様な選択肢づくりについて論じた。

所 感

動的平衡については、まちづくり、都市論、組織論にもつながるのではないかと、それは首長および行政だけではなく、議会もまた中長期的視点に立って調査研究し、議論し、行政を導くことも重要であると感じた。

また清元市長の報告にあった、ウォークアブルシティである。姫路城の改修のころにあった姫路駅から姫路城にストレートに走る道路の歩道を拡張させたことが有名である。しかし、私が勤務した豊田市の広場周辺、姫路市の歩行者利便増進道路「ほこみち」、佐賀駅南口の通りは同一事業者であることが一目瞭然であり、コンサルタント会社や事業者の起用については十分注意しないと金太郎飴的なウォークアブルシティになる危険性があることを留意しなければならない。

流山市のグリーンチェーン認定は、認定住宅の優遇金利での貸し付け、剪定枝の無料回収を行っている。大野城市で事業所に対してある緑化協定だけでなく導入検討することもいいかと思った。また同じく要配慮児童保育の取り組みについても今後調査したいと思った。

-作成者 中村 慎一郎-